

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年 5月 28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490201161		
法人名	有限会社サカコーポレーション		
事業所名	グループホームガーデンの家川内		
所在地	〒731-0102 広島県広島市安佐南区川内五丁目1番9号 (電話) 082-831-4165		
自己評価作成日	平成31年4月29日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490201161-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和元年5月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

事業所との繋がりを大切にし、夏祭りや餅つきなどの行事を開催し、地域との交流の機会を作っています。利用者様お一人おひとりにスポットを当て「役割づくり」や「趣味活動」等、個別での関わりを通じて、その人らしい生活が送れるよう支援を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

平成29年8月に開設した事業所であり、建物には看護小規模多機能型居宅介護事業所と訪問看護ステーションを併設しており、日々の暮らしの中で相互に連携して支援が行える環境となっている。近隣には法人の地域密着型サービスや特別養護老人ホームなど運営しており、研修システムなど運営基盤が構築され、相互に協力しながら地域に目を向けた関わりを展開している。経営理念でもある地域の中で住み慣れた生活を支えるための社会資源がガーデンの家であるということ意識し、年末の餅つき会など地域の方も参加してもらえる行事にて交流を行い、今年度は事業所の夏祭りに地域の方に来てもらえるように精力的に働きかけている。利用者一人ひとりにスポットを当てる介護方針により、メモリアルブックの作成や、利用者個々に役割作り、趣味や個別の活動を通して「その人らしい生活が送れる支援」を実践している事業所である。

自己評価	外部評価	項目(せせらぎ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の朝礼時に参加者で唱和している。地域密着事業として、地域の中でのような事業所になっていくべきか、職員も交え考えて理念を作成した。	経営理念を朝礼にて唱和しており、フロア日誌にも貼り確認しやすくするなど共有に努めている。地域密着事業を展開するにあたり、会社内の他事業所と共同し作成した理念の実践にも努めている。その理念の中でも地域での暮らしと住み慣れた生活を支える社会資源として意識を持ち、取り組みに力を入れている。	職員への更なる経営理念、運営理念の確認の機会を持つ機会を定期的に設けることで、職員全員が理念を軸とし精通した支援がより一層行えることを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	年間行事として、年末に餅つき会を開催した。その際に地域住民も参加され、入居者、地域住民、職員と一緒に取り組めた。令和元年8月3日には、地域住民にも声かけし夏祭りを計画中。	町内会に加入しており、地域の取り組みや行事などの案内の情報を得ている。年末のもちつき会は地域の方の参加もあり、利用者や地域との交流の機会となっている。地域の子供食堂に事業所の食材を提供するなど、地域貢献も行っている。	まだ開設して日が浅いこともあり、地域との付き合いはこれからの可能性の部分を大きく感じます。イベントなどでの交流はもとより、日常的に地域とのかかわりを意識した取り組みが行っていけることを願います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	日々の業務で学んだこと、感じたことを、地域の人々に向けて発信や報告は出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。地域住民代表として、町内会長や民生委員の計4名が出席されている。家族代表の参加がないため、参加を促していきたい。	併設している看護小規模多機能型居宅介護と合同にて開催し、地域から町内会、自治協会長、民生委員の参加があり、事業所の運営や日頃の取り組みの報告を行っている。地域からの情報や行事の案内もあり、情報交換の場になっている。	家族の参加者がいないことや、行政機関からの参加も十分でないこともあり、様々な視点を持った方の参加を促し、日頃の取り組みを知る機会の中で、色々な意見交換がなされる場となり、サービスの質の向上、繋がりや関係の形成に向けての取り組みが行えることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営上不明な点があれば、担当部署に連絡し確認をしている。	市の担当者とは必要に応じて問い合わせや相談を行い、連携を図っている。市や地域包括支援センター主催の研修にも参加している。	

自己評価	外部評価	項目(せせらぎ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止推進委員会が中心となり、管理者参加の元、廃止に向けて検討会議を行なっている。	年1回定期的に施設内研修を行っているほか、身体拘束廃止推進委員会にて検討会議を行い、各事業所にて振り返り議論しながら身体拘束の防止に努めている。身体拘束を安易にしないように日々のミーティングで確認するなど検討を重ね取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	2ヶ月に一度開催される、社内の内部研修で高齢者虐待防止法についての研修が開催され理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を利用されている方、利用を始められる方もおり、職員間で話し合い、学ぶ機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者や計画作成担当者が、契約書、重要事項説明書、各同意書の説明を行ない、同意をいただいている。利用者、家族の状況、利用についての想いを聞きだしケアプランにも繋げている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	建物1階に意見箱を設置している。投書はないが、家族面会時などに職員や管理者と話す機会を設けている。また、年2回運営懇談会という会を開催し家族から意見を求めている。	日常のケアにおいて利用者の意向を把握している。家族には面会時や年2回行事に合わせる形で運営懇談会を開催し、家族からの意見を確認している。要望を随時確認し都度対応を心掛けている。エレベーターの床マットが汚れ外したところ、家族から滑るから戻してもらいたいと要望があり対応した例がある。	

自己評価	外部評価	項目(せせらぎ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は職員との日々のコミュニケーションの中で、運営に関することを聞きだし、実現できるように取り組んでいる。共用の車いすの購入(予定)や指示待ち体制ではなく職員が自主的に考え、行動できるよう発信をしている。	職員とも日々の業務の中で話をいきいき思いや要望を確認している。管理者から発信することで職員にも言い易い状況が作られている。休憩がとれないことに、ユニット間での応援体制を作り時間が設けられるようにした工夫や、突発的な受診費用の工面の方法など改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期ごとの目標設定や、パート評価シートを取り入れ、面談時に一緒に目標設定を行なっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間の研修計画で、実務者研修や介護福祉士取得に向けての勉強会、認知症実践者研修などの受講人数を決め、職員へ励行している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は同業者と交流する機会はあるが、職員には作れていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始前には、管理者や計画作成担当者が本人から想いを聞きだし、安心できる雰囲気づくりに努めている。またケアプランにも反映させ、日々の取り組みで実践している。		

自己評価	外部評価	項目(せせらぎ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族の想いを聞きだし、不安を取り除けるよう様々な提案をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>「その時」に必要としている支援を提供できているか不明だが、聞き出すよう努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>職員本位にならず、利用者一人ひとりに目を向け、役割を作り、一緒に取り組んでいる。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族と一緒に本人を支援していく体制を作っていきたいが、病院受診など日々の業務で家族の協力が得られないことがある。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族や友人の面会が多くある。職員が自宅の様子を一緒に見に行くなどしている。墓参りなども一緒に行なったことがある。</p>	<p>家族や友人の訪問もよくみられる。入居時に聞き取りを行い、個々の馴染みの把握をしている。本人の生活歴など知りえる情報や関わりを都度記録に留め共有している。又、その内容や様子をメモリアルブックにまとめ作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(せせらぎ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>シーツ交換など利用者同士が協力し合い行なっている。自由に席につき利用者同士が雑談をしていることも多い。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>利用終了者が少ないが、家族には行事の参加を促している。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>毎月チームミーティングで、利用者の状態を共有するようにしている。</p>	<p>日々の関わりから把握し、記録や毎月のミーティングにて情報交換し共有している。夜遅くでもフロアでテレビを観て過ごせたり、ノンアルコールビールの提供など、個人の思いを大事にした実践を行っている。自身で表現が難しい方にも家族からしっかり話を聞き、できるだけ本人本位の支援になるように努めている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>生活歴を知るためにメモリアルブックを作成している。生い立ちなど家族にも協力していただき、アルバムを見ながら思い出されたことを記録している。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>生活記録をつけ一日の様子、変化の把握に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(せせらぎ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月担当者によるモニタリングを実施している。また、担当者が介護計画の作成にもかかわっている。</p>	<p>職員に利用者それぞれの担当を設け、担当職員がモニタリングを行うなど、個人の様子や意向をより詳しく把握し、計画作成時に職員全員の意見を集約した上で計画作成者とプランの立案に係り作成している。ミーティングでも全体で話し合い意見を反映させ、必要により医療もチームとして関わり実施している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子は生活記録に記入しているが、ケアの提案などは、職員間の伝達ノートや申請で提案して、検討している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その時々生まれるニーズに関して、既存のサービス内容で対応しようと考えるに止まっている。新たな発想やサービスの多機能化には至っていない。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>食材の買い出しなど利用者と一緒に行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医を継続しておられる方、提携の病院に変更しておられる方がいる。</p>	<p>希望により入居前のかかりつけ医の継続もできる。協力医の定期的な往診や歯科も訪問診療にて診てもらえる体制であり、専門科にも家族と協力しながら受診の支援を行っている。事業所建物に訪問看護も併設しており、週に1度健康管理や主治医との連携を図るなど安心して医療が受けられる環境が整備されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(せせらぎ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週一回の訪問看護の健康管理時に利用者の状態変化を報告、また、毎朝の朝礼時にも同様に報告、共有を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前の情報提供は行なえたが、入院中の状態確認は不定期で行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りに関して、家族、主治医との話し合いの場を何度も設けた。	看取りを実施しており半年間において2件の対応がある。入居前に重度化した場合の指針やリスク説明を行い、その後、重度化など状況が変化したときに看取りの指針をもとに説明し、意向を確認しながら取り組んでいる。取り組んだ内容を最終的に話し合い、次に繋げることや研修も意欲を持ち計画を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訓練は実施できていないが、急変時の対応はミーティングで確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を実施している。	年2回、消防署の立会いにて避難訓練を行っている。緊急通報装置の設置があり、近隣とも協力を得られるよう関係性を構築している。事業所は災害時に地域の一時避難場所に指定されており、町内会での防災マップを地域と共に共有し地域と協力体制を築き備えている。今後、備蓄など防災の充実を検討している。	

自己評価	外部評価	項目(せせらぎ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者と職員の距離が近くなりすぎて言葉遣いが不適切になることがある。	法人での倫理綱領において定期的に研修が計画されており、プライバシーへの理解や利用者の尊厳について意識の向上を図っている。現場からも接遇研修の声が上がっている。日頃からも羞恥心に配慮したトイレの声掛けなどのケア実践や言葉掛けにも職員同士お互いに気をつけて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	分かりやすく説明し意思の確認を行なうよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	家庭的な雰囲気を作りつつ、のんびりしすぎないようにメリハリのある生活を送れるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日に着る服を一緒に選んでいる。外出やイベント時には化粧をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	みそ汁の具材に何を入れるか一緒に選んでいる。片付けは利用者が率先して取り組んでおられる。	食事は三食ともに湯煎で温めて提供しているが、ご飯やみそ汁は利用者と共に作り、本人の楽しみや役割に繋がるようにケアプランと連動した生活の営みとなっている。食事量が減っている方でパンが好きであればパン食を提供するなど柔軟に対応している。調理レクを行って気分転換や楽しみとされている。	

自己評価	外部評価	項目(せせらぎ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量を把握し、状況によりゼリーで提供するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりに合わせた排泄パターンを確認し、誘導や声掛けを行なっている。	排泄記録にて職員全員で共有し、個人の排泄パターンを把握し誘導することで個々に合わせた支援がなされている。職員採用時の研修にて排泄の自立支援に向けて必要な技術の習得を促すなど支援の向上にむけての取り組みがある。支援を通してリハビリパンツから布パンツに変更できた例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄表で確認し、牛乳やヨーグルトを提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	状況によっては入浴日の変更をする場合もある。	週2～3回のペースで入浴を行っている。嫌がる方には午後から勧めるなど時間をずらしたり日にちを変更したりしながら、その方の状況に合わせ無理の無い支援を実施している。浴槽も可動式にて設置位置を左右にずらすことができ、浴槽への入りやすさなども利用者に合わせて行える設備環境となっている。	

自己評価	外部評価	項目(せせらぎ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>利用者のペースに併せて、居室での安静を促している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>訪問薬剤管理指導を利用しておられ、説明、理解をしておられる。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>利用者の役割を見つけ、日々の生活の中で取り組めるようにしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>その日の状況に応じて、外出を行なっているが利用者の希望に添えない日もある。</p>	<p>家族の協力を得ながら外食や希望の外出など行っている。季節の外出では定期的に花見や紅葉狩りに行くなど利用者の楽しみとなっている。散歩も現在では十分に行えていない部分もあるが、今後に向け取り組んでいけるように検討している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>お金を管理することが難しいため、基本お金を持っておられない。</p>		

自己評価	外部評価	項目(せせらぎ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>携帯電話を利用し自由に家族とやり取りをされている。自らできない方へは職員が取り次いでいる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>カーテンの開け閉めや窓の開放など、時間帯、季節を感じられるよう取り組んでいる。</p>	<p>リビングはゆったりと広々な共用スペースである。ソファなども適所に設置され、スペースの中でゆったりと寛いで過ごすことができる。バルコニーが設けられ、外の景観を望み、適度に日差しも差し込み、柔らかい照明の光に全体的に温かみのある居心地の良い空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>職員が介入しすぎず、利用者同士で話をしたりされる場では自由に座っていただいている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家で使用されていた家具を持ち込んでいただくよう、入居前に依頼を掛けている。</p>	<p>各居室には専用の洗面台が設けられており、持参物も自宅で使用されていたチェストや調度品などで馴染みのある居室空間となっている。以前、鍼灸の施術をされていた利用者の方は昔仕事で使っていた按摩のできる台が置かれており、個人の背景を踏まえ繋げられる環境づくりの支援がなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>自立した生活を送れるよう、必要以上の介助に入らないよう意識している。</p>		

V アウトカム項目(せせらぎ) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(さえずり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の朝礼時に参加者で唱和している。地域密着事業として、地域の中でどのような事業所になっていくべきか、職員も交え考えて理念を作成した。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現状取り組めていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	日々の業務で学んだこと、感じたことを、地域の人々に向けて発信や報告は出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。地域住民代表として、町内会長や民生委員の計4名が出席されている。家族代表の参加がないため、参加を促していきたい。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営上不明な点があれば、担当部署に連絡し確認をしている。		

自己評価	外部評価	項目(さえずり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ユニット内に1名、身体拘束廃止推進委員がおり、委員会での取り組みをユニット内に発信、職員同士で検討し取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部研修に参加し、虐待について学んでいる。職員間で何が虐待にあたるかを話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部研修などで学ぶ機会はあるが支援までは出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者や計画作成担当者が、契約書、重要事項説明書、各同意書の説明を行ない、同意をいただいている。利用者、家族の状況、利用についての想いを聞きだしケアプランにも繋げている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	建物1階に意見箱を設置している。投書はないが、家族面会時などに職員や管理者と話をする機会を設けている。また、年2回運営懇談会という会を開催し家族から意見を求めている。		

自己評価	外部評価	項目(さえずり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングには管理者が必ず参加しており、職員は意見や提案を発信している。反映されているかはまだわからない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が代表者と会う機会はほとんどない。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修は充実しているが、回数は多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は同業者と交流する機会はあるが、職員には作れていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	担当者を決め、担当者を中心にご本人との関係を深めるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目(さえずり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>面会時に積極的に声を掛け信頼関係を築くようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>「その時」に必要としている支援を提供できているか不明だが、聞き出すよう努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ご本人に気を遣わせることなく家族のような関係を目指している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会に来られた時など積極的に声を掛け家族様が職員に何でも言いやすい関係を作り、ご本人に対するケアを考えている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族や友人の面会が多くある。職員が自宅の様子を一緒に見に行くなどしている。墓参りなども一緒に行なったことがある。</p>		

自己評価	外部評価	項目(さえずり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>協同で作業していただきたいと思っているが、個々の想いがあり、難しい場面がある。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>利用終了者が少ないが、家族には行事の参加を促している。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>ご本人との会話の中で希望や想いを汲み取ろうとしている。会話が難しい方は家族の希望や意向を聞き把握に努めている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>一人ひとりの入所時のフェースシートを読み、把握している。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>生活状況を記録している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(さえずり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月担当者によるモニタリングを実施している。また、担当者が介護計画の作成にもかかわっている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録に記入し、気づきや工夫などはミーティングで提案、職員同士で共有し実践している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その時々生まれるニーズに関して、既存のサービス内容で対応しようと考えてしまっている。新たな発想やサービスの多機能化には至っていない。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>食材の買い出しなど利用者と一緒にやっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>毎月1度 内科医往診6名、受診2名、その他1名 歯科往診 4名 何かあればかかりつけ医に相談し指示を仰いでいる。受診表を作成し活用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(さえずり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護にて看護師に相談適切な受診や看護を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	話しが出来ている家族もいるが、出来ない家族もいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訓練は実施できていないが、急変時の対応はミーティングで確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年1回避難訓練を行ない、災害時に備えている。		

自己評価	外部評価	項目(さえずり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	内部研修で学んだことを日々のケアに活かしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員それぞれが入居者様と関わり会話の中で思いや希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	眠る時にはパジャマを着ていただき生活にメリハリをつけている。 好きなものを着ていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備を手伝っていただいている。 みそ汁を作っていたり、出来る方には配膳、下膳、食器洗いをしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目(さえずり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>飲み込みが困難な方にはトロミをつけて提供、キザミ食おかゆも提供している。パンが好きな方もおられ、米ではなくパンも提供している。水分摂取表をつけ一人ひとりの状態を把握している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後居室内洗面所にて行っている。一人ひとりに応じたケアを行なっている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>歩行困難な方や立位が難しい方でも決まった時間にトイレ誘導し、二人介助にて行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分補給を十分に行い便秘にならないよう注意しているが、排便が-3日、-4日となってしまう方には、かかりつけ医と相談し薬を処方してもらっている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>毎日の入浴は難しいが、週に2~3回は入っていただけるよう努力をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(さえずり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>夜、あまり眠っておられない方には声掛けを行ない、昼食後休んでいただくようにしている。車椅子の方でも座位の時間が長くないよう休んでいただいている。シーツ交換も週1回行ない布団も干している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>一人ひとりの薬情を職員全員が目を通してしている。症状に変化があれば職員間で情報共有している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>畑を耕し作物を植えた。ベランダのプランターに花を植え、水やりをお願いしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>日常的に外出は出来ていないが、外出レクを計画し花見に行くなどした。買い物など一緒に行くこともある。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>お金を所持している方はおられるが、自由には使えていない。ほとんどの方がお金を所持していない。</p>		

自己評価	外部評価	項目(さえずり)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話を掛けたいという訴えが無い。家族からかかってきた電話を取り次ぎお話しされることはある。手紙も書かれる方がいなかった。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節やイベントに応じた壁画づくりに取り組んでいる。トイレ、浴室は掃除を行ない清潔を保っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>テーブルや席の配置など気を配っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご本人の動線を考えながら家具やベッドを配慮している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>自立した生活を送れるよう、必要以上の介助に入らないよう意識している。</p>		

V アウトカム項目(さえずり) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームガーデンの家川内

作成日 令和元年7月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	日常的に地域との関わりが作れていない。	地域住民が訪れやすい敷居の低い事業所を目指す。	①日々のレクリエーションで作成した作品、育てたお花などを近隣の保育園に寄贈する。	R1. 9. 1
				②畑で採れた野菜を使って調理をし、隣家におすそ分けをする。	R1. 10. 1
2	18	同一建物の他サービスが主で使用しているため、使用できる時間などが限られている。	外出をしたいときにすぐに出れるよう、車両の確保をしたい。	他サービスへ車両を定期的に借りれるよう打合せを行なう。	R1. 8. 31
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。